

第5章 児童生徒の実態把握の進め方

1 「もしかすると？」…気付きと当面の支援のための実態把握

LD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒への適切な支援のためには、気付きと実態把握が不可欠です。ここでは「学習障害(LD)児等の指導 指導マニュアル」*1及び「学校における実態把握の観点」*2による、チェックリストを用いた方法について説明します。

実態把握は、学習面、社会性・行動面、認知面の3つの側面について、以下のよう
にして把握します。

ステップ1 学級におけるスクリーニング 『わたしたちにきづいて』(P 30)

担任が学級全体の児童生徒を見つめて、LD等の可能性がある子どもを、「意欲」「友達とのトラブル」「友達との関わり」「落ち着きや集中」「自己コントロール」「集団行動」等の8つの側面からチェックします。

ステップ2 個別の評価 『わたしはこんな子』(P 31)

「わたしたちにきづいて」であげられた児童生徒一人一人について、「学習面」「意欲面」「友達関係」「行動面」「気になること」「得意なこと」「長所等」「担任の願い」等の面について整理し、記入します。

ステップ3 個別の学力の評価 『ここまでわかります』(P 32、33)

国語・算数・体育・図画工作・音楽の5教科について、各項目3～4段階で学習面の状況を確認します(該当する項目にチェックを付けます。)

ステップ4 社会性・行動面の状況把握 『ADHD、HFA(高機能自閉症)気付きのためのチェックリスト』(P 34、35)

知的発達の状態、教科指導、行動、コミュニケーション、対人関係等について該当する項目にチェックを付けます。社会性・行動面の特性の概略が把握できます。

ステップ5 認知発達面の評価 『ほんとうのわたしを見つけて』(P 36～37)

LD児等に見られる学習の困難さは基礎的心理過程や認知(情報処理)過程のつまづきの結果であると言われます。このチェックリストを実施することによってそのことを理解する手がかりを得ることができます。

チェックリストの進め方

- ・はじめに聴覚処理、視覚処理、知覚運動、注意、記憶、行動特徴等の各領域について該当の項目をチェックします(各領域により項目数は異なります)。(A表)
- ・その結果を整理表に転記します。当該番号の にチェックを付けるとともに、右側の受容、連合、表現の欄の該当する「 」を「 」に塗りつぶします。
- ・聴覚処理等の各領域毎に、割合(チェック項目数÷領域の項目数×100)を求め、〈 〉の欄に記入します。
- ・受容、連合、表現の欄の「該当する の数」には の数を記入し、「該当する の数の割合(%)」には の数を、 と の合計で割った割合(%)を記入します。
- ・最後に、グラフに該当する の数の割合(%)を記入し、その割合を数値を線で結びます。(B表)

* グラフは、割合の数値よりも個人内差(得意と不得意の差や折れ線の鋭角的な傾斜の状態)に注目します。割合の高い(数値が高い)項目は不得意な認知(情報処理)過程であり、反対に割合の低い(数値が低い)項目は得意な認知(情報処理)過程であって指導法に生かせるものです。

上記の実態把握は主観によるものです。妥当性を高めるには、担任の先生とともに、養護教諭などの関係する先生からも情報を収集します。また、学校全体が同じチェックリストを使うことは、教職員の共通理解とともに比較や変化の確認等の面でも有効です。

* 1 埼玉県立南教育センター、平成 11 年 3 月発行。平成 13 年 7 月第二刷発行

* 2 文部科学省「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）参考 3 高機能自閉症等の定義と判断基準（試案）」より

2 心理アセスメントの目的

LD、ADHD、高機能自閉症など軽度発達障害の児童生徒を理解し、支援していくには、そのつまずきの背景に認知能力の特異的な発達の状況が予想されます。そこで、その認知能力上の特徴を確認する手段として、各種心理検査による心理アセスメントも必要になってきます。

心理アセスメントによって得られた結果は、以下のことを理解・検討するために行われます。なお、この結果は、「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」作成の際の重要な知見となります。

- (1) LD、ADHD、高機能自閉症の教育的判断を行う。
- (2) 能力の特性やつまずきの背景・理由を知る。
- (3) 適した教育形態や進路や将来の方向性を検討する。
- (4) 日々の教育的支援について検討する。
 - ・何を目標とするのか。
 - ・どのような内容を取り上げ、どのような方法で指導するのか。

心理アセスメントに使用される心理検査

心理検査は様々なものがあるが、認知能力の把握を目的として使用されるものをいくつかあげてみます。

検査名	使用目的
WISC - 知能検査法	全般的知的発達の水準と主として言語的知能と動作知能という枠組から能力のアンバランスさや能力の偏りを把握する。
K - ABC 心理・教育アセスメントバッテリー	知能と習得度を分けて測定する。さらに、子どもの得意な認知処理スタイル(「継次処理 - 同時処理」)を把握する。
ITPA 言語学習能力診断検査	知的発達のうち、コミュニケーション過程に必要な心理的機能を把握する。
田中ビネー知能検査	全般的知的発達水準について把握する。
絵画語い発達検査 (PVT)	言語能力について把握する。
グットイナフ人物画検査 (DAM)	身体像・視覚的能力について把握する。
フロスティグ視知覚発達検査 (DTVP)	視空間知覚能力について把握する。

他のアセスメントの手段

適切なアセスメントを行うには心理アセスメントのみならず、行動観察と学習・生活面の情報収集(通知表、日記、作文、ノートなど)や生育歴、既往歴、家庭環境などの状況の把握も大切になってきます。

わたしたちにきづいて (スクリーニング表)

あなたのクラスに このような児童がいますか？

_____年 _____組

1 学習面で気になる子

2 全体的に意欲が感じられない子

3 意欲的な場面(事柄)とそうでない場面(事柄)の違いが大きい子

4 友だちとのトラブルが多い子

5 友だちとかかわりをもちたがらない子

6 落ち着きがない、あるいは集中できない子

7 自己コントロールができないことが多い子

8 集団行動についていけないことが多い子

わたしはこんな子

年 組

児童氏名

1 学習面

学習が遅れがちである

得意な教科と不得意な教科がある

得意な教科

不得意な教科

教科内に、得意な領域と不得意な領域がある

得意な領域

不得意な領域

2 意欲面

全般的に意欲がない

意欲的な場面(事柄)とそうでない場面(事柄)の違いが大きい

意欲的な場面(事柄)

意欲的でない場面(事柄)

3 友だち関係

友だちとのトラブルが多い

状況

考えられる理由

友だちとかかわりをもちたがらない

4 行動面

落ち着きがない、あるいは集中できない

場面や状況

自己コントロールができない

場面や状況

5 その他の気になること

6 得意なこと(学習面や生活全般)

7 長所や積極的なこと(性格や行動面)

8 担任の願い

ここまでわかります

年 組 児童氏名

国 語	【言語理解】 1 <input type="checkbox"/> 生活上の簡単な指示がなかなか理解できない。 2 <input type="checkbox"/> 因果関係など少し複雑な会話になると理解できないことが多い。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。
	【言語表出】 1 <input type="checkbox"/> 会話の内容が単純で、使う言葉が著しく限定されている。 2 <input type="checkbox"/> 言葉を適切に使用したり、順序よく話したりすることができない。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。
	【音読】 1 <input type="checkbox"/> 読めないひらがながある。またはひらがなが逐次読みである。 2 <input type="checkbox"/> 読み方がたどたどしかったり、勝手読みをすることが多い。 または長い文章が読めない。 3 <input type="checkbox"/> 読める漢字の数が非常に少ない 4 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
	【読解】 1 <input type="checkbox"/> 単文で記述されている事実の理解が難しい。 2 <input type="checkbox"/> 学年相当の文章における基本的な読解が難しい。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
	【書字】 1 <input type="checkbox"/> 鏡文字や不正確な文字を書くことが多い。 2 <input type="checkbox"/> 拗音や促音の表記が不正確、「お」と「を」、「わ」と「は」の表記を混同することがある。 3 <input type="checkbox"/> 書ける漢字の数が非常に少ない。 4 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
	【作文】 1 <input type="checkbox"/> 話しことばをそのまま文字に置き換えられない。 2 <input type="checkbox"/> 考えていることを文法的に正しく記述することが困難である。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
算 数	【数と計算】 1 <input type="checkbox"/> 学年相当の問題を自力で解くことが難しい。 2 <input type="checkbox"/> 理解が遅く、つまずきやすい。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
	【測定】 1 <input type="checkbox"/> 学年相当の問題を自力で解くことが難しい。 2 <input type="checkbox"/> 理解が遅く、つまずきやすい。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
	【図形】 1 <input type="checkbox"/> 学年相当の問題を自力で解くのは難しい。 2 <input type="checkbox"/> 理解が遅く、つまずきやすい。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし（学年相応）。
	【文章題】 1 <input type="checkbox"/> 一つの問題において解き方を何回か確認しても、その問題を自力で解くことが難しい。 2 <input type="checkbox"/> 同種の問題を繰り返し練習すれば、パターンを利用して自力で式を立てられる。 3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし

体 育	<p>【粗大運動】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 体操やボール運動がうまくできない。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 体操やボール運動の動きがややぎこちない。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>
	<p>【平衡感覚】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 片足立ちをすることが5秒間できない。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 片足立ちが10秒以上はできない。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>
	<p>【協応動作】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> スキップやなわとびができない。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 何回か繰り返すとできることがある。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>
図 画	<p>【描画】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> テーマに関する課題や作業を自力で見い出せない。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> なぐりがきやはみ出し塗りが多く、長く集中していることができない。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>
	<p>【工作】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 課題やテーマをどのようにして具体化してよいか見い出せないことが多い。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 不器用さを自覚していて自信がもてないでいる。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> つくりたいと思う具体的な形を簡単な形でしか表すことができない。</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>
音 楽	<p>【歌う】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 自分の歌声や発音に気をつけて歌うことができない。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 歌詞の表す情景や気持ちを想像して歌うことができない。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>
	<p>【楽器演奏】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 楽器の演奏が難しい。</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 合奏することが難しい。</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 特に問題なし。</p>

* ADHD 高機能自閉症 気付きのためのチェックリスト *

学校名 _____ 年 氏名 _____ (男・女)

A 知的発達の状態

- 1 知的発達の遅れは認められず、全体的には極端に学力が低いことはない。

B 教科指導における気付き

- 1 本人の興味のある教科には熱心に参加するが、そうでない教科では退屈そうにみえる。
- 2 本人の興味ある特定分野の知識は大人顔負けのものがある。
- 3 自分の考えや気持ちを、発表や作文で表現することが苦手である。
- 4 こだわると本人が納得するまで時間をかけて作業等をすることがある。
- 5 教師の話や指示を聞いていないようにみえる。
- 6 学習のルールやその場面だけの約束ごとを理解できない。
- 7 一つのことに関心があると、他の事が目に入らないようにみえる。
- 8 場面や状況に関係ない発言をする。
- 9 質問の意図とずれている発表（発言）がある。
- 10 不注意な間違いをする。
- 11 必要な物をよくなくす。

C 行動上の気付き

- 1 学級の児童生徒全体への一斉の指示だけでは行動に移せないことがある。
- 2 離席がある、椅子をガタガタさせる等落ち着きがないようにみえる。
- 3 順番を待つのが難しい。
- 4 授業中に友達の邪魔をすることがある。
- 5 他の児童生徒の発言や教師の話を遮るような発言がある。
- 6 体育や図画工作・美術等に関する技能が苦手である。
- 7 ルールのある競技やゲームは苦手のようにみえる。
- 8 集団活動やグループでの学習を逸脱することがある。
- 9 本人のこだわりのために、他の児童生徒の言動を許せないことがある。
- 10 係活動や当番活動は教師や友達に促されてから行うことが多い。
- 11 自分の持ち物等の整理整頓が難しく、机の周辺が散らかっている。
- 12 準備や後片付けに時間がかかり手際が悪い。
- 13 時間内で行動したり時間配分が適切にできない。
- 14 掃除の仕方、衣服の選択や着脱などの基本的な日常生活の技能を習得していない。

D コミュニケーションや言葉遣いにおける気付き

- 1 会話が一方通行であったり、応答にならないことが多い。（自分から質問をしても、相手の回答を待たずに次の話題に行くことがある。）
- 2 丁寧すぎる言葉遣い（場に合わない、友達どうしても丁寧すぎる話し方）をする。
- 3 周囲に理解できないような言葉の使い方をする。
- 4 話し方に抑揚がなく、感情が伝わらないような話し方をする。
- 5 場面や相手の感情、状況を理解しないで話すことがある。
- 6 共感する動作（「うなづく」「身振り」「微笑む」等のジェスチャー）が少ない。
- 7 人に含みのある言葉や嫌味を言われても、気付かないことがある。
- 8 場や状況に関係なく、周囲の人が困惑するようなことを言うことがある。
- 9 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出すことや独り言が多い。

E 対人関係における気付き

- 1 友達より教師（大人）と関係をとることを好む。
- 2 友達との関係の作り方が下手である。
- 3 一人で遊ぶことや自分の興味で行動することがあるため、休み時間一緒に遊ぶ友達がいないように見える。
- 4 ロゲンカ等、友達とのトラブルが多い。
- 5 邪魔をする、相手をけなす等、友達から嫌われてしまうようなことをする。
- 6 自分の知識をひけらかすような言動がある。
- 7 自分が非難されると過剰に反応する。
- 8 いじめを受けやすい。

特記事項

本チェックリストは、文部科学省「今後の特別支援教育の在り方（最終報告）」の参考3、「ADHD、高機能自閉症の定義と判断基準」（試案）をもとに作成した。

ほんとうのわたしを見つけて (A表)

児童氏名 該当番号	年 組															受 容															連 合															表 現																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	注意	注意の範囲	聴覚的敏捷性	視覚的敏捷性	継次的処理	同時的処理	聴覚記憶	視覚記憶	短期記憶	長期記憶	言語概念化能力	数を扱う能力	視覚的認知	空間的能力	系列化能力	知覚的体制化	結晶性能力	流動性能力	視覚-運動の協応	手指の巧緻運動
【聴覚処理】聞いて理解して実行する 割合《 %》																																																															
1 □聞き取りがうまくできない。																																																															
2 □人の話していることが理解できない。																																																															
3 □質問に適切に答えられない。																																																															
4 □単純な文章だけで話したり、使う言葉が著しく限定されている。																																																															
5 □話すとき文法的な間違いがある。																																																															
6 □自分の考えを相手にうまく伝えられない。																																																															
7 □相手の話の内容に関係なく、一方的な話をする。																																																															
8 □学級の話し合いについていけない。																																																															
【視覚処理】目で見て理解して実行する 割合《 %》																																																															
9 □つかえたり、たどたどしい読み方になる。																																																															
10 □飛ばし読みや、助詞や文末の読み間違いをする。																																																															
11 □文章の内容の理解ができない。																																																															
12 □字の大きさがばらばらだったり、他の字とくっついてしまう。																																																															
13 □誤字脱字が多い。																																																															
14 □平仮名や漢字を正確に書けない。																																																															
15 □板書を視写するのに時間がかかる。																																																															
16 □筆算で位取りが間違いやすい。																																																															
17 □図形を構成する要素の理解が難しい。																																																															
18 □表やグラフから数量の間の関係を読み取ることができない。																																																															
【知覚運動】目と手・足の協応動作がうまくいく 割合《 %》																																																															
19 □はさみ、定規、コンパス等の道具の操作が苦手で不器用である。																																																															
20 □リズム打ちができない。																																																															
21 □楽器の演奏が苦手である。																																																															
22 □工作が苦手である。																																																															
23 □感じたことや想像したことを絵や立体に表すことが難しい。																																																															
24 □縄跳び、鉄棒、跳び箱等が苦手である。																																																															
25 □運動の苦手を意識して、運動的な遊びの誘いにのらない。																																																															
26 □整理整頓が苦手である。																																																															
【注意】注意の集中 割合《 %》																																																															
27 □周囲の刺激に気が散りやすく落ち着きがない。																																																															
28 □自分の興味あるもの以外には集中する時間が短い。																																																															
29 □一点に注意が向き過ぎて、周りの状況がつかめないことが多い。																																																															
30 □ボーとしていることが多い。																																																															
31 □全体の指導の中では、注目して話を聞くことができない。																																																															
【記憶】 割合《 %》																																																															
32 □聞いたことがなかなか覚えられない。																																																															
33 □約束した内容などを忘れてしまうことが多い。																																																															
34 □ルールの理解が難しく、勘違いが多い。																																																															
35 □漢字や知識の習得など暗記する学習が苦手である。																																																															
36 □学年相応の常識的な知識が少ない。																																																															
37 □九九が覚えられない。																																																															
【その他】その他の行動的特徴																																																															
38 □時間について、学年相応の理解ができていない。																																																															
39 □左右、位置等について、学年相応の理解ができていない。																																																															
40 □服装が乱れていても気にしない。																																																															
41 □その場の雰囲気や状況の判断が難しく自己中心的行動が多い。																																																															
42 □相手の態度や表情を理解することが難しい。																																																															
43 □気持ちの表し方や伝え方が適切でなく、周囲に誤解されやすい。																																																															
該当する ●の数 ○●の数 合計																																																															
該当する●の数の割合 (%)																																																															
	35	32	17	23	18	11	12	10	12	12	23	6	24	20	23	25	28	10	13	12	15																																										

ほんとうのわたしを見つけて (B表)

年 組 児童氏名 _____

	受 容				連 合								表 現									
	注 意 の 範 囲	注 意 の 持 続	聴 覚 的 敏 捷 性	視 覚 的 敏 捷 性	継 次 的 処 理	同 時 的 処 理	聴 覚 記 憶	視 覚 記 憶	短 期 記 憶	長 期 記 憶	言 語 概 念 化 能 力	数 を 扱 う 能 力	視 覚 的 認 知	空 間 的 能 力	系 列 化 能 力	知 覚 的 体 制 化	結 晶 性 能 力	流 動 性 能 力	視 覚 — 運 動 の 協 応	手 指 の 巧 緻 運 動	言 語 表 現	
得 意	5																					
	10																					
	15																					
	20																					
	25																					
	30																					
	35																					
	40																					
	45																					
	50																					
	55																					
	60																					
	65																					
	70																					
	75																					
	80																					
	85																					
	90																					
	95																					
不 得 意	100																					
	%																					

第6章 LD、ADHD、高機能自閉症の理解と支援のポイント

成就感がもてるようにする

- ・児童生徒のできることから始める。
- ・小さなことでも認め、できたことは具体的にほめる。
- ・成功したことが見える工夫をする。

自信がもてるようにする

- ・児童生徒の得意なことを認め、自信をもたせるようにする。
- ・得意な面を伸ばし、やればできるという気持ちを育てる。
- ・友だちからもよいところを認められる機会を設定する。

目標をもたせ、意欲を高める

- ・実際に見聞きできるような資料を与え目標が具体的にイメージできるように配慮する。

自律性を高める

- ・具体的な目安を示すなどして、自分で判断できるようにする。
- ・係活動などをやり遂げることができるように工夫する。

家庭と協力する

- ・保護者が率直に子どものことを相談できる人間関係を大切にする。
- ・家庭でのかわり方について、学校での工夫と変化をもとにできるだけ具体的に知らせ、協力を求める。

保護者の願いは・・・

楽しい学校生活を送らせたい。

一日一回は、「わかった」、「できた」、「ほめられた」、「挑戦できた」という体験をさせたい。

担任がどんな配慮を工夫し、どんな変化があったか知らせてほしい。

担任に緩衝材となるような役割を果たしてほしい。

支援の仕方を工夫する

- ・児童生徒に合った課題を取り上げる。
- ・児童生徒が得意なことで出番を用意する。
- ・手を添えたりして、方法を具体的に理解できるようにする。
- ・言葉で説明しながら、実際にやって見せたり、絵や図などを使ったりする。
- ・学習の手順を声に出して確認するように促す。
- ・学習の成果や努力を児童生徒がフィードバックできるような工夫を行う。

ほかの児童生徒の理解を促す

- ・個別の支援や配慮が、特別扱いではないことについて理解を促す。
- ・必要に応じて、友達の支援や協力が得られるように工夫する。

学習環境を整える

- ・落ち着いた学習の雰囲気をつくる。
- ・机の上や身の回りの整理・整頓の仕方に配慮する。

資料

1 埼玉県内の主な相談機関一覧表

相談機関	所在地	電話番号
埼玉県立総合教育センター 教育相談	〒336 - 8555 さいたま市緑区三室 1305 - 1	048 - 874 - 3400
県立小児医療センター	〒339 - 0077 岩槻市馬込 2100	048 - 758 - 1811
国立秩父学園発達診療所	〒359 - 0004 所沢市北原町 860	04 - 2992 - 2859
中央児童相談所	〒362 - 0013 上尾市上尾村 1242 - 1	048 - 775 - 4411
南児童相談所	〒336 - 0003 さいたま市浦和区元町 2 - 30 - 20	048 - 886 - 3341
川越児童相談所	〒350 - 0838 川越市宮元町 33 - 1	049 - 224 - 5631
所沢児童相談所	〒359 - 0042 所沢市並木 1 - 9 - 2	042 - 992 - 4152
熊谷児童相談所	〒360 - 0014 熊谷市箱田 5 - 12 - 1	048 - 523 - 0967
越谷児童相談所	〒343 - 0033 越谷市恩間 402	048 - 957 - 7507
埼玉県自閉症・発達障害 支援センター まほろば	〒350 - 0813 川越市平塚新田東河原 201 - 2	049 - 239 - 3553

2 LD等を理解するための参考資料

(1) 小・中学校におけるLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン(試案)

平成16年1月 文部科学省

(2) 学習障害(LD)児等の指導—実態把握、指導内容、指導方法—指導マニュアル

平成11年3月 埼玉県立南教育センター

(3) 学習障害(LD)を理解するために(教師のための指導資料)

平成13年3月 埼玉県教育委員会

(4) 学習障害(LD)を支援するために(教師のための指導資料:その2)

平成14年3月 埼玉県教育委員会

「LD、ADHD、高機能自閉症」の
児童生徒の理解と支援のために

- 特別支援教育推進体制モデル事業（中間報告） -

平成 16 年 3 月

発行 埼玉県教育委員会

編集 埼玉県教育局指導部特別支援教育課
〒330 9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3 15 1

電話 048(830)6880

印刷 関東図書株式会社